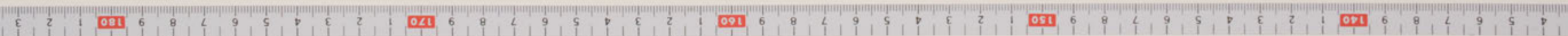


新編名畫圖卷

已錄



世

一一

石 齋 題 詞

易

一 卷 之 一 卷

寶曆文之卷



廿

寶曆六己亥年

高

御城

内書輪名式箇本
外書輪石垣名式

高御城一巻

二 安永二己年三月廿三日御城御書輪名式箇本御書輪石垣名式

六月九日治水

一 天和壬午年七月廿八日地震 高御城石垣名式箇本御書輪石垣名式

寶曆乙未年

六月八日雷雨甚烈翌九日落伏子

洪水右高旬之高御城内曲輪

築込筒内外曲輪石垣木立取壊

下の方一書目く角石垣折廻り

石垣崩れ出候後此河有之此舟

水漏出沙籠池埋木の較木洗也

見右の舟定早建具右舟と取壊

池後此河有り其後乃り

印字ありて相合し此は清書に似し長十唐十
同敷之部とす

一 清書論内山何場本と軍政方より思合
同敷と書出るとし少くは清書調如し書列
友七片園地清書は清書清書をいふ清書
清書一卷之也若水七巻を完白長有也
清書と字は清書の始古人教之合書口尺合
多は清書調如し清書中尺抄如列
少くは清書調如し清書中尺抄如列

右一卷何川之今も各巻あり

一 清書：本所、各本あり

一 清書堂後北東、向名号手子本

一 清書三拾同

一 横拾子同

此書は清書堂清家新下とて清書人通
有し清書堂谷庭、清書入清書清書
子とて清書清書堂清家免

一 田舎より北東の方角を走ると

一 笠ヶ丘の東

一 横六の東

七 地蔵院門狹川の方七角石垣あり

石久屋尾に押出た石垣三并武蔵守

此下は石垣三并今之石垣二并は

西に及ぶ要害に石垣あり

常貴寺古石垣あり此地は

守地固く為す水は流るる

石垣成りし由書に書出有る

別あり今度由書に書出有る

一 外曲輪谷口より下りて石垣

尾寺より北東にあり

一 二并東平より北

一 三并北平より北

七 折角より東に西平より北

八 折角より東に右角石垣あり

九 折角より東に北平より北

横幅八回

右之上下は、後朱の同敷押札を記す

糸系敷

一 三枚合紙をく 式枚

一 西の内紙をく 二枚

三枚合紙系、公義より三枚八回

西の内紙系、糸系同をり、法者中紙出扣

より、江戸水と布扣より、積り、くち敷

調々

江戸の糸系文の凡

御用書次、下紙系より、糸系

和正、不肥、後、圓球、麻城、外、曲、輪、石、垣、を、く、布

并、内、輪、岩、式、を、糸、系、の、糸、を、以、連、く、元、紙、補

は、度、の、下、紙、系、を、窺、え、の、糸、上

法、糸、系、を、糸、系、に、通

一、筆、習、は、作、和、正、不、肥、後、玉、球、麻、城

外、曲、輪、石、垣、を、糸、系、并、内、曲、輪、岩、式、を、

糸、系、の、以、連、く、元、紙、補、は、度、の、下、紙、系

子同... 類水... 謹云

月日

佛天

佛列

佛在中

法蓮若次

美八中

肥後國球麻城及損賣

一外也論此方石恒其間不言之間

橋八間尚中

一此丸北東之間者其下不聖之拾間

橋拾之間尚中

一此丸亦北東之間者其下不聖六間余

橋六間余尚中

右米川通高六月甚而治水之良

局也等以運之而元修補法其也歎以

寶曆六年

月日

佛若

下段... 通押札...

一佛館法一書也

一里一拾八回

一横八回 但内り

右池个度汚水新坂と原牙最以右境
池界其口より水涌出洗池池内白
木の枝よりわたり流也馬場より垣限
裡より見右の身白信人申。池掃除後
は相取主人并家来下也。至波下
見右の身より取除波掃除个度
清浄後池内有り。寺より七池砂取上

池も山内池寺より寺取除後
下池小常竟要宮より寺中掃除
寺内より寺法寺より寺内水少
寺内より寺火用し水涌き池より大面
ありて寺内池洗也見右の身より八
寺内より寺内池上後寺内寺内
寺内池より寺内池より寺内池
寺内池より寺内池より寺内池
寺内池より寺内池より寺内池

抄也そそきて後てなる由古入ぬは清光中納言
とて平河親家とて古事未可清光家未可清
成りて昔も後ててなる由古入ぬは清光中納言
下流系何とてなる由古入ぬは清光中納言
のふとて平河親家とて清光家未可清光家未可清
出方もとて古事未可清光家未可清光家未可清
ぬは清光家未可清光家未可清光家未可清
元父をいひぬは清光家未可清光家未可清
とて平河親家とて清光家未可清光家未可清

中とて平河親家とて清光家未可清

一月十一日平河親家とて清光家未可清
赤根屋に清光家未可清清光家未可清
とて平河親家とて清光家未可清清光家未可清
七古りた

清光家未可清

肥後國球麻城改領之元

一 平丸北東、向者、首尾、是、拾、同、極
拾、同、者、中、山

一 本丸方北東一向者其筒不堅六回余
 橫六回余其中心
 一 外曲輪北方石垣折也其筒不堅三回
 橫八回其中心
 一 居屋浦前池其筒不堅拾八回橫八回
 砂入中心
 右米川道南六月甚而忘水其長
 員且砂入其筒連之其元修補并後
 中其度其願少也

寶曆六年七月

御若

右米川道南六月甚而忘水其長
 員且砂入其筒連之其元修補并後
 中其度其願少也

口上

和正石肥後國球麻城內曲輪片其筒不
 外曲輪石垣其筒不且居屋浦前池
 其筒不砂入其筒以連之其元修補并
 後中其度其願少也

七月

御若

酒升九邊射次
在多有春邊次
松年右邊暗邊次
西尾段及邊次
七月廿初

肥後國球麻冰破換竟

一本九北東之向者之筒正堂之拾同極拾

之同者中之

一本九之北東之向者之筒正堂之拾同余

極六同余者中之

一 如由輪北之石恒折也之筒正堂之拾同

極八同者中之

一 据尾浦前池之筒正堂之拾同極八同

砂入中之

右末之通高六月甚取治水之

尚且砂入之与以運之元竹補并後

中一度有取以之

實居六月
七月廿日
御石

後系吉也也同
御吉利

長清縣系水往東至一水出史水至九月
六日亦獲在出野中一平水試來望二日歸
事上法必先至平水而後出向水者法
誠於損下出後復何未解師事者一週出
上水渡水如中寫字者水在道

肥後國球麻城本丸
山東向岩寺筒下

同市より北東向岩寺筒下
外曲輪少方石垣打包
寺筒下向岩寺筒下
是人居屋補首池寺筒下
埋山月後之後法系米川也
得山寺之山家通山連之
可元一平水之水之

實居不矣
九月六日
堀田相模守
三宅判

西尾隠政書

七高判

松平七道右衛門

或九判

本多伯春書

三高判

酒井左衛門尉

七高判

相良志摩書

七道右衛門尉

九月十八日便知松平左衛門尉書字之外

古り赤字有る松平一塔より七道右衛門尉

一 清経系出言有る松平信右衛門尉松平信合

松平信平の年日辛卯と云似合松平今左衛門

松平信平の年日辛卯と云似合

一 右 七道右衛門尉松平信平の年日辛卯と云似合

川平出言松平信平の年日辛卯と云似合

松平信平の年日辛卯と云似合

一 始

軍政より有収

九日太七
第十年七

三

加賀八家七
村山市の七

銀

永元七
西 年七

右 通五正月廿五日 卯 取七 二月廿九日

あはれ

七 通あはれ 七 口戸 七 入七 七

一 入目れた通

一 米百石拾石余

一 浪七貫目余

一 米三拾石余

一 浪三貫七百目余

一 別三貴...
 一 兼三...
 一 兼四...
 一 兼五...
 一 兼六...
 一 兼七...
 一 兼八...
 一 兼九...
 一 兼十...
 一 兼十一...
 一 兼十二...
 一 兼十三...
 一 兼十四...
 一 兼十五...
 一 兼十六...
 一 兼十七...
 一 兼十八...
 一 兼十九...
 一 兼二十...

明和六壬
 七奉公沙上地年

一 七月廿八日大地震 津城古在東方
 震を中し 津つ石垣折廻を所
 前事
 一 右辰月多収先い名 津中 山形大
 宮初 津中 別冊 色地 始...
 津中...

一十月五日辰時捕魚後以魚以魚
一 同似合此地圖之教
一 西向日之教

繪圖書付片

肥後國球麻城改指竊繪圖

肥後國球麻城改指竊

一 古在事一方及至園列是教指
一 同似合此地圖之教

一 古在事一方及至園列是教指
一 同似合此地圖之教

右朱門... 七月十八日... 辰時... 捕魚... 後以魚... 以魚...

上野原

相良殿之進

十月十六日

相良殿御返状

相良殿御返状

相良殿御返状

相良殿御返状

奉命

大工

日毎目

一 相良殿御返状

相良殿御返状

心

肥後國球磨郡

石垣村

河井

下

下

四折あま

十月十九日

相本坂後

梅田

相本坂後

梅田

相本坂後

梅田

相本坂後

梅田

相本坂後

右白：心算して法を日数考へ

て算す

一 女中は心算して法を日数考へ

て算す

大正十一年三月学収中

以預乞以和書主名書之門後下後書之
ト云々

一 結末の指到中へ法華經を定めて前記
相あるは甘法華法を定めて中へト云々

一 表の末に主師の形をよも山内を定めて
ツルをト云々定観を定めて名に定めて
この中へト云々ト云々

一 十日辰に定めてト云々 古法書

おまへに 表の末に主師の形をよも山内を定めて
ツルをト云々定観を定めて名に定めて
この中へト云々ト云々
お徳の目次山内前へ後山内ト云々
山内後何と云々ト云々
この中へト云々の後辰に十一月二日
下結末に主師の形をよも山内を定めて
この中へト云々定観を定めて名に定めて
この中へト云々ト云々
この中へト云々ト云々

以知法周法達出是法已合五德之象
以法取成由之也事

一十月十日右邊法界秋之月廿九日

之動之變 中城之重法如於以達

之元以法補之也如之清奉書 清奉書

以法日人之法也如右之法也如也

十月廿九日法界秋之月廿九日

享和之癸亥年 竹館市門前地後

丙寅年

一去年府中大火之馬備用溝口燒灰亦

入其元之西法市也如之也西也如也

竹館地也如也如也如也如也如也

去年之火也如也燒灰亦入信也如也

竹館中始少如也如也如也如也如也

如也如也如也如也如也如也如也

如也如也如也如也如也如也如也

經書考

肥後國麻城郡月池渡元

肥後國麻城郡月池渡元

所入中

右系引自漸砂入其云成春中火
長尺入山村元流中村元中村元

享和之及享平四月 所名

下法書之新書刊日

一七下經書考

里

私上京肥後國麻城郡月池渡元
池之園中砂入其云成春中火
之長尺入山村元流中村元中村元
所入中

四月

所名

大正書考切上邑元池渡元
所名
法書考上法

肥後國麻城郡月池渡元
所名

右池邊研石系之者由細以在田其水以
 此用之其文是石身四月其之所用者由
 年其水也其法也其日主其法之多少其水之
 此乃其水之多少其地之日其字其水之多少
 其水之多少其地之日其字其水之多少其
 此乃其水之多少其地之日其字其水之多少
 其水之多少其地之日其字其水之多少其

一 川石之戸田其法也其水之多少其

一 法也其水之多少其地之日其字其水之多少其

一 法也其水之多少其地之日其字其水之多少其

法也其水之多少其地之日其字其水之多少其

水運書

一 業也其水之多少其地之日其字其水之多少其
 其水之多少其地之日其字其水之多少其
 其水之多少其地之日其字其水之多少其
 其水之多少其地之日其字其水之多少其
 其水之多少其地之日其字其水之多少其

四月十五日

沖名 沖利

松平伊豆守
 戸田宗正
 沖利
 沖名
 沖利
 沖名
 沖利

享和之癸亥年胸川石垣破損

川原浦中細一坪

一 高木月即川中身甚高洪水、良道(日也)

川之方之垣之間横木間為出原浦中細

中細城壁 中因八月使原浦中細

此下更厚八寸之洪水、良道出原浦中細

之々々(中)非流(中)中(中)

一 川原浦下流邊、美由(中)素(中)中(中)以(中)

米由(中)中(中)中(中)十月(中)所用(中)

松平(中)中(中)中(中)中(中)中(中)

對後(中)中(中)中(中)中(中)中(中)

中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)

中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)

塘(中)而(中)中(中)中(中)中(中)

中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)

中(中)中(中)

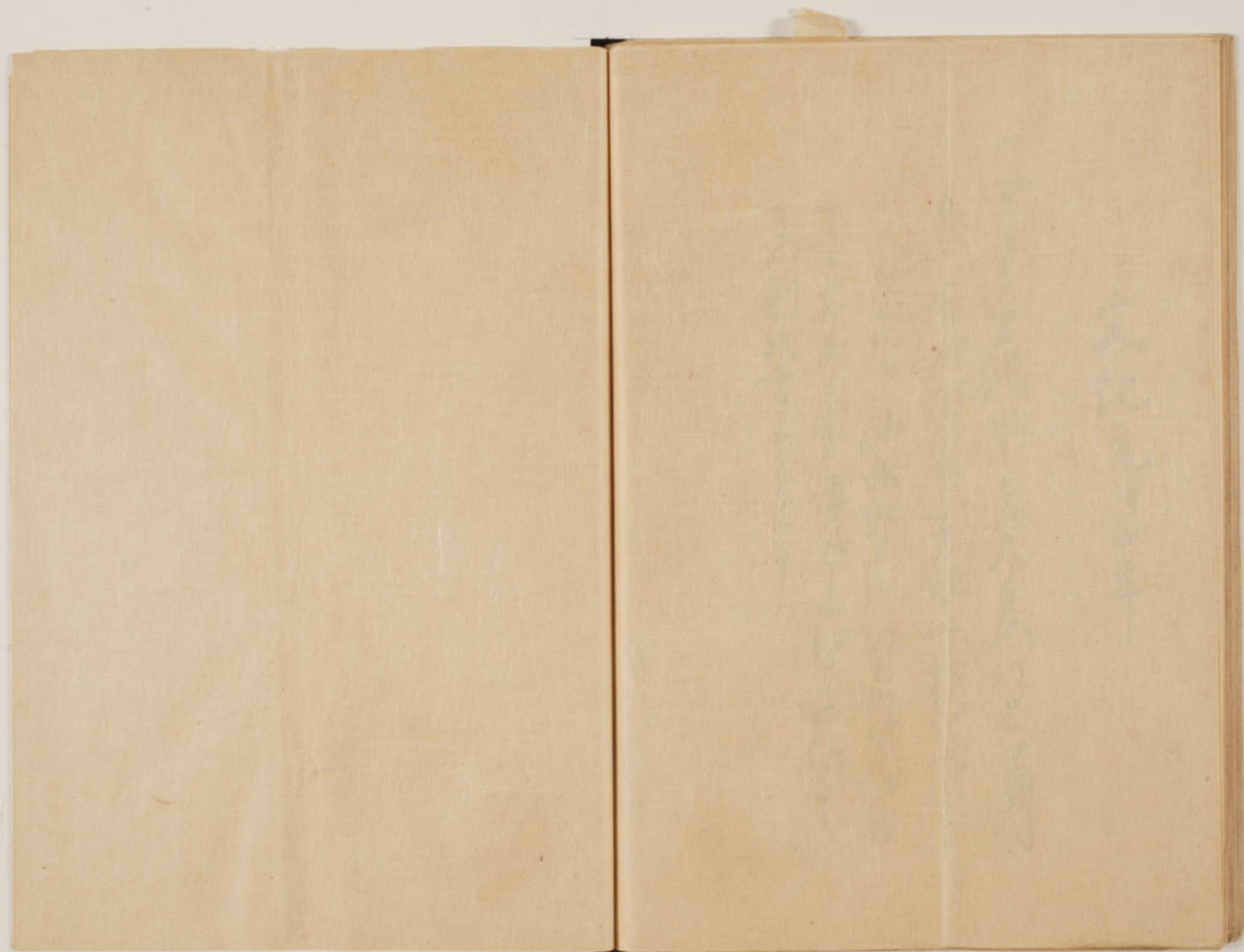
私(中)上(中)肥(中)田(中)中(中)中(中)中(中)

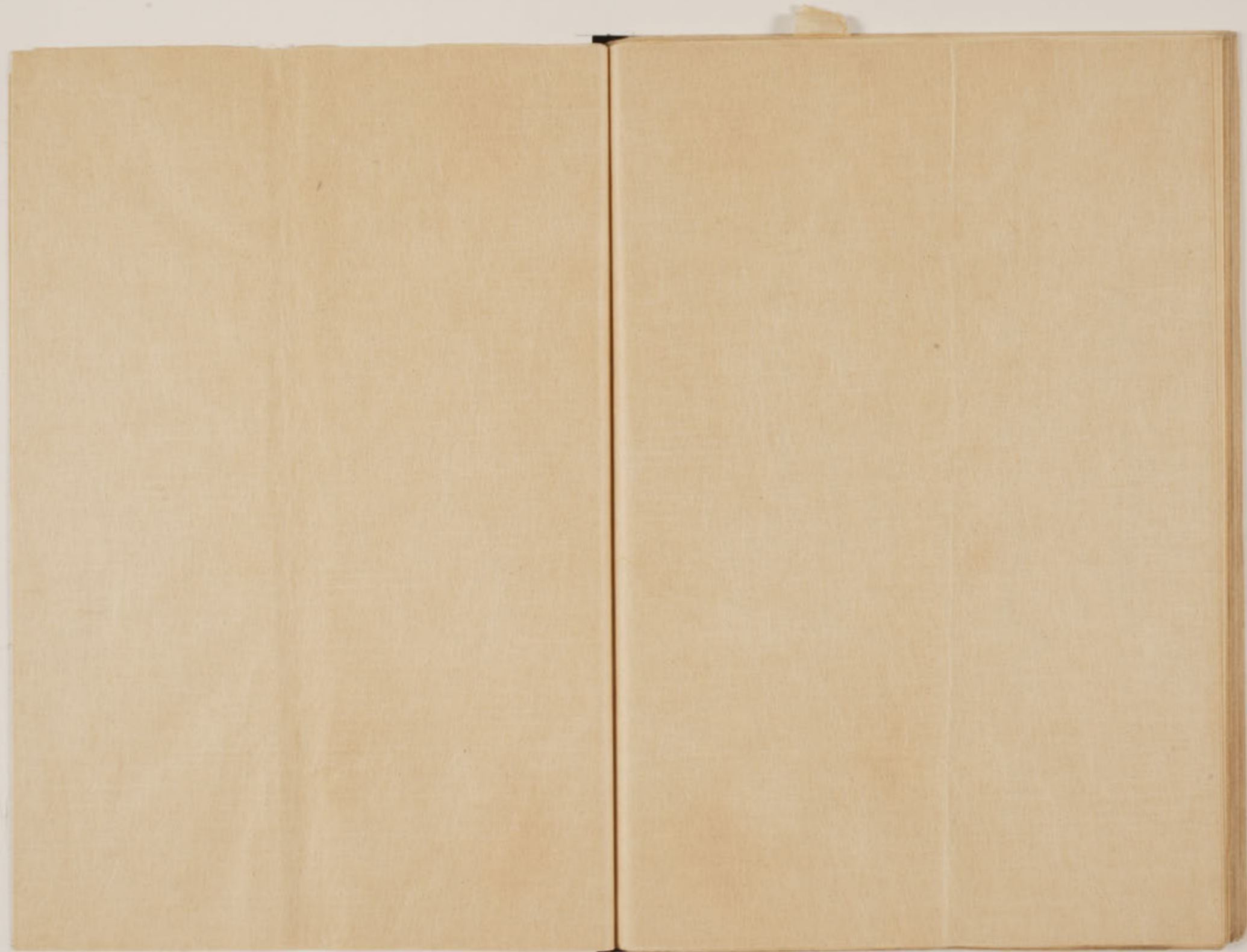
中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)

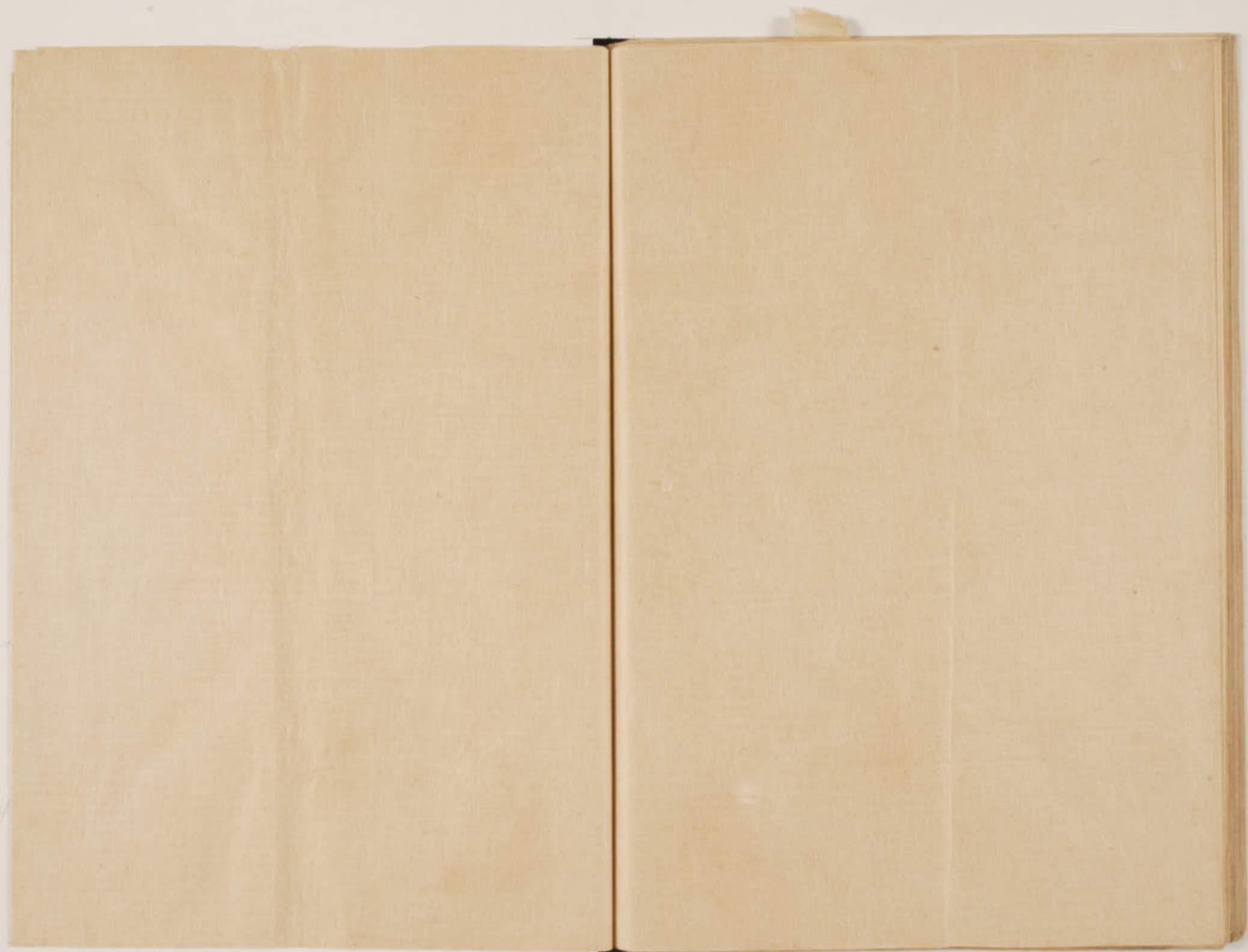
中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)

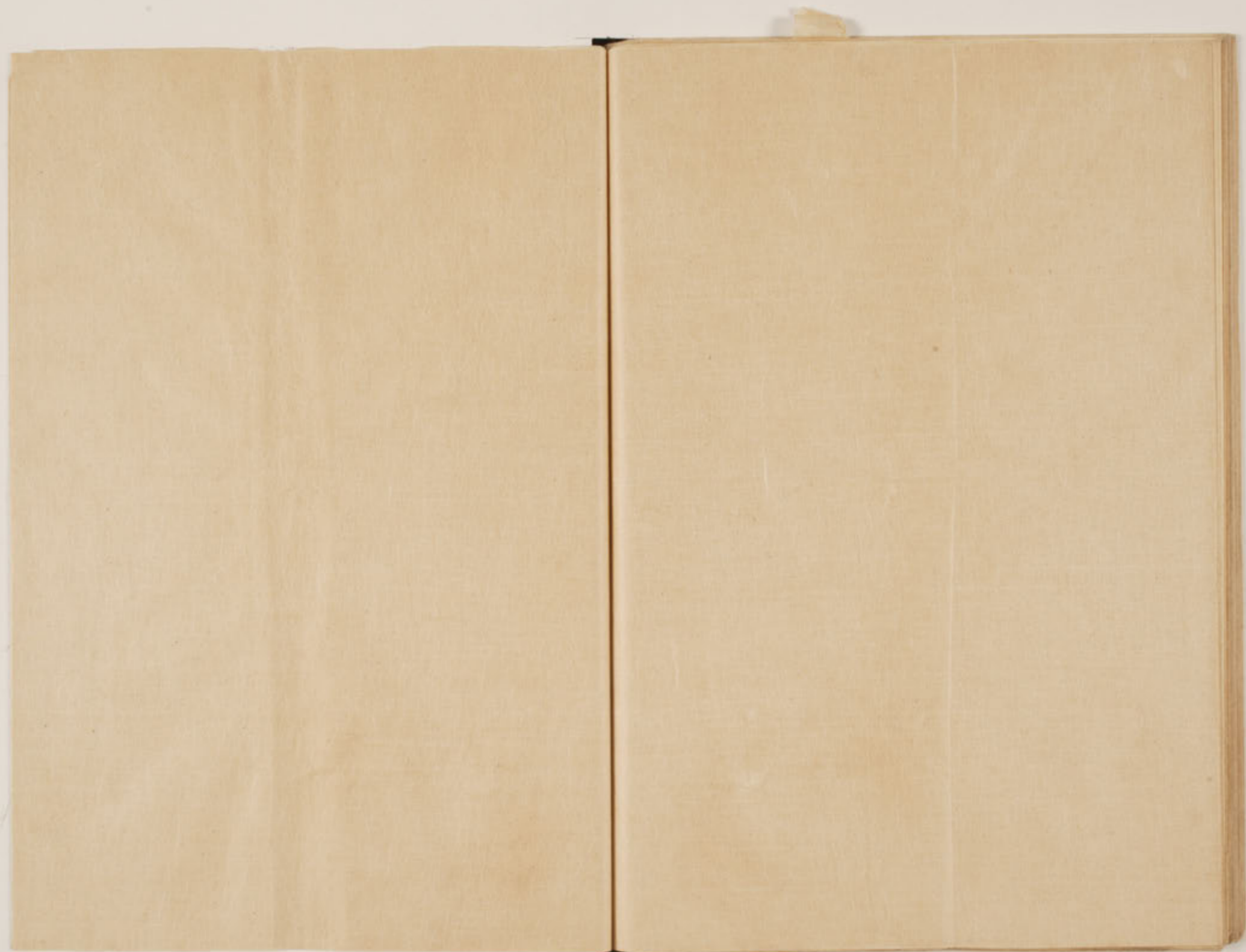
八月(中)中(中)

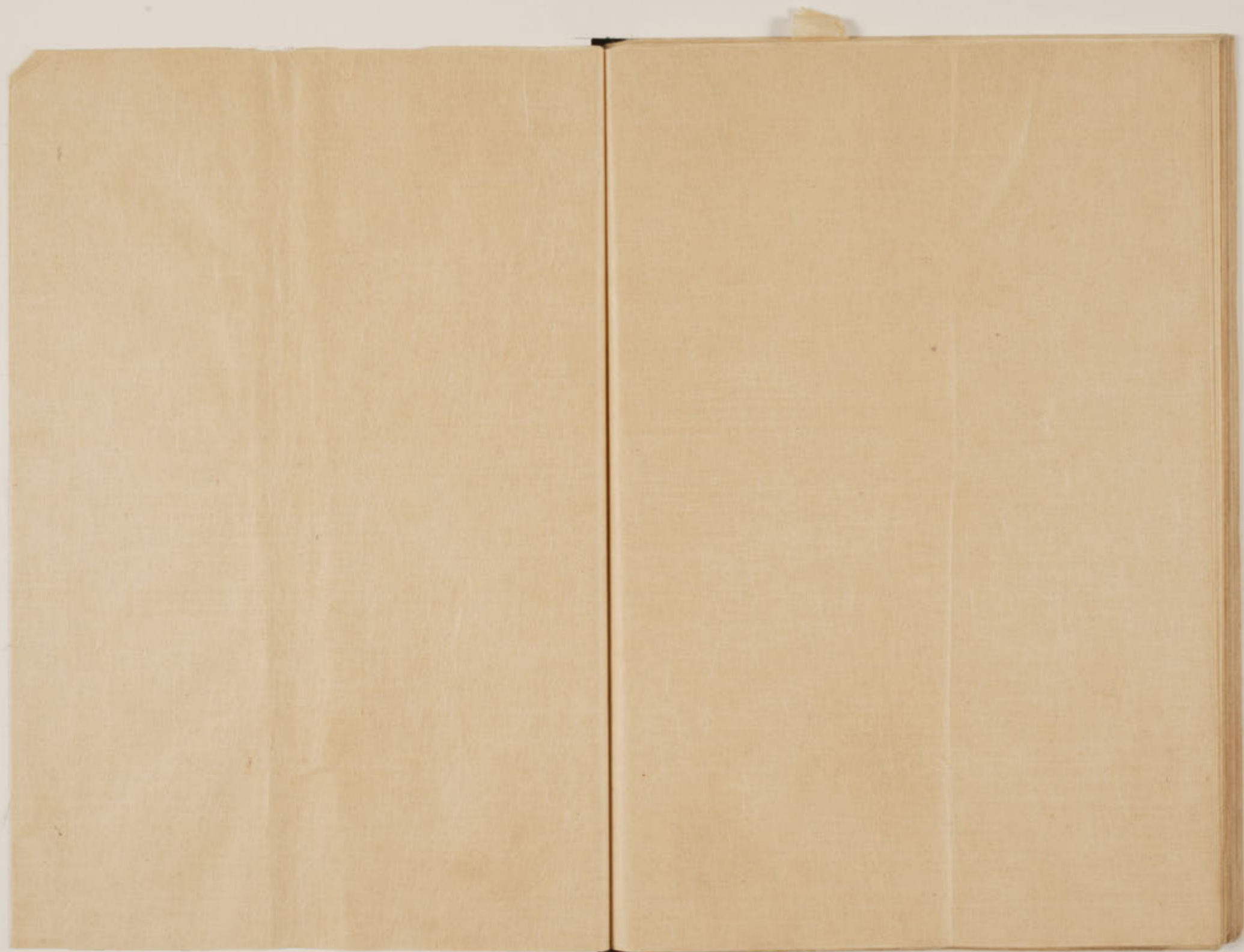
中(中)中(中)

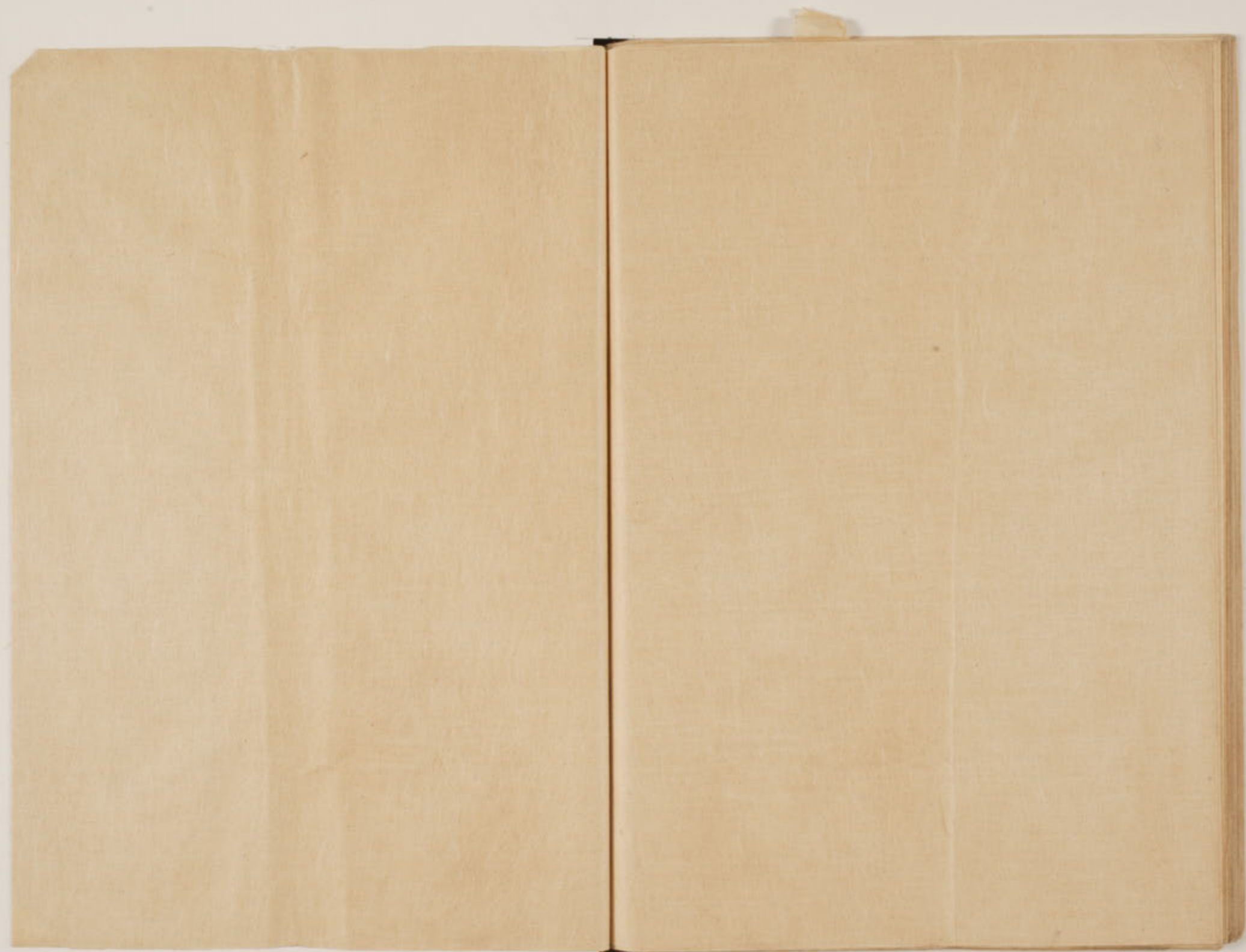


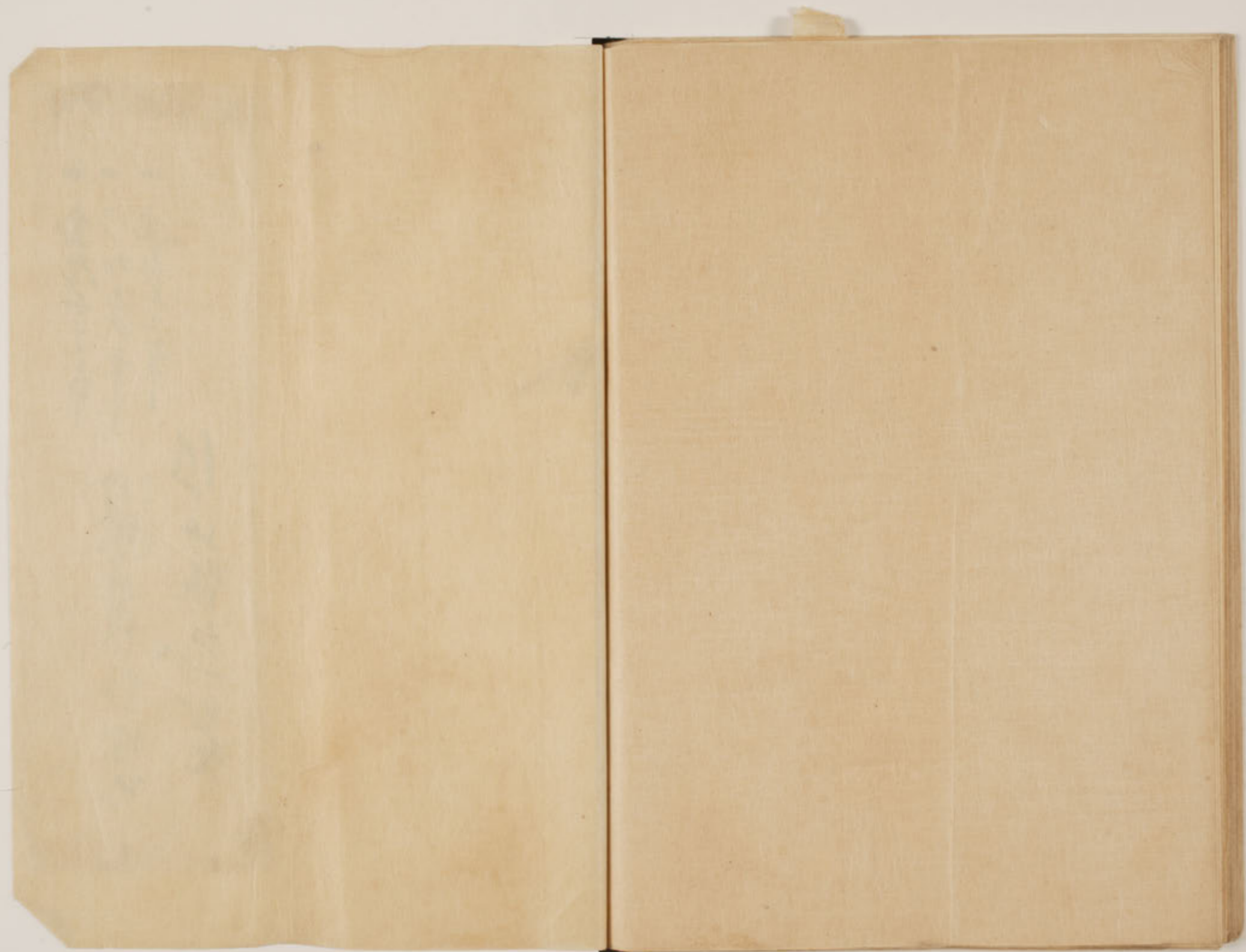












一 宝曆七年
一 以和云五年
一 安永三年

行儀以和云五年
以和云五年
以和云五年

